

2016 年度

# エコアクション21 環境活動レポート



対象期間 2016年1月1日～12月31日  
作成日 2017年1月27日



エレベーター押ボタン・各種部品製造  
**株式会社オリエンタル工業社**

## 目 次

- 1、環境方針
- 2、事業の概要
- 3、今期の特徴（スポットライト）
- 4、環境経営システム組織図
- 5、受賞歴
- 6、工業見学・インターンシップの内容
- 7、フロンガスの検査表（簡易点検）
- 8、社内の運動施策
- 9、環境目標と実績グラフ及び評価
- 9-1、環境目標と実績グラフ
- 9-2、環境目標と実績グラフ
- 10、環境活動計画及び取組結果の評価、次年度取組内容
- 11、環境関連法規への違反、訴訟の有無
- 12、全体の評価と見直しの記録

## 1. 環境方針

### 経営理念

当社は、永年に渡って機械加工部門と、組立加工部門と、板金加工部門の全く異なる分野で技術と開発を進めてまいりました。少量短納期には加工と倉庫（少量の在庫を置く）の両立を確立し、更に、当社独自の環境に優しく災害にも強いオリジナル製品を開発し、IT経営で営業力を大いにアピールし、且つ、会社の周りには木々を植えるなど緑化運動を推進し、環境に配慮した小さくとも力のあるスモールメーカーとして、日本全国の顧客に対し、「ありがとう」の気持ちを持って接しております。

### 行動方針

株式会社オリエンタル工芸社は、エレベーター部品製造と精密機械加工の専門分野として、環境との共生・調和への取り組みを最重要課題として以下の環境保全活動を推進します。

#### 環境保全活動

（環境保全活動とは、自然の恵みを次世代に受け継いでいくために、さまざまな環境負荷の削減に取り組んでいきます。）

1. 環境保全に関する法規制を遵守し、可能なかぎり自主基準を制定し、環境保全に取り組みます。
2. 事業活動の中で、下記の項目について重点的なテーマとして保全活動を推進し、環境目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に取り組みます。
  - (1) 事業活動の中で特に、二酸化炭素・廃棄物・総排水量低減の削減に取り組みます。
  - (2) 資源ごみの再資源化を図り、廃棄物量の削減に努力します。
  - (3) コピー用紙の両面使用は元より、IT業務化によるペーパーレス活動、製造工程から排出される梱包等の排出物の削減に取り組みます。
  - (4) 冷暖房時の室内温度の管理をし、休息時の電源OFFの推進をし、製造工程で使用する電気使用量の削減に取り組みます。
  - (5) 車両のアイドリングOFFを実行し、車両の保守点検作業と、安全運転を順守します。
  - (6) 近くにある得意先や協力会社には、車両を使用せず、徒歩或いは自転車で行き、ガソリン等の削減に取り組みます。

#### 当社独自の削減方法

- (7) 二酸化炭素排出量の削減に緑化運動の推進に取り組みます。
  - (8) 異常気象による冠水化に伴う結露や錆などによる損害防止を防ぎます。
  - (9) 定尺板の前処理（メッキ）によって、材料のムダと運搬・人件費の削減に努めます。
  - (10) 工場などの雨どいを直し、それによる緑化運動を活発化し、二酸化炭素の削減、総排水量の削減に取り組みます。
  - (11) 抗菌性の押ボタンとユニバーサル仕様の押ボタンなど、環境とバリアフリーを意識した製品を開発し、高齢者や身体障害者の方が安心して暮らせるように努めます。
3. 環境教育と社内広報活動を実施し、全社員に環境方針を周知徹底すると共に、取引先にも環境方針を周知し、社内外において環境保全活動の知識・認識の向上に努めます。

—この環境方針は、社内外に公表致します—

2012年11月15日改訂

株式会社 オリエンタル工芸社 代表取締役社長

杉本 亨

## 2.事業の概要（環境活動レポートの取組の対象範囲、期間）

### 1. 事業者名及び代表者名

株式会社 オリエンタル工芸社 代表取締役 杉本 亨

### 2. 所在地

東京都大田区大森西 7 丁目 2 番 5 号

### 3. 環境保全関係の責任者連絡先

経営者	株式会社オリエンタル工芸社	代表取締役	杉本 亨
管理責任者	株式会社オリエンタル工芸社	グループリーダー	堺野 健一
担当者	株式会社オリエンタル工芸社	事務局	高橋 佳佑
連絡先	電話 03-3763-3601	FAX 03-3763-2621	

### 4. 事業の規模

売上高	<u>207 百万円(昨年度 215 百万円：対前年比 3.9 %減)</u>
従業員数	<u>10 名</u>
床面積	<u>303 m<sup>2</sup></u>

### 5. 対象範囲 エレベーター部品及び各種機械加工部品の製造

### 6. レポート対象期間

2016 年 1 月 1 日 ～ 12 月 31 日

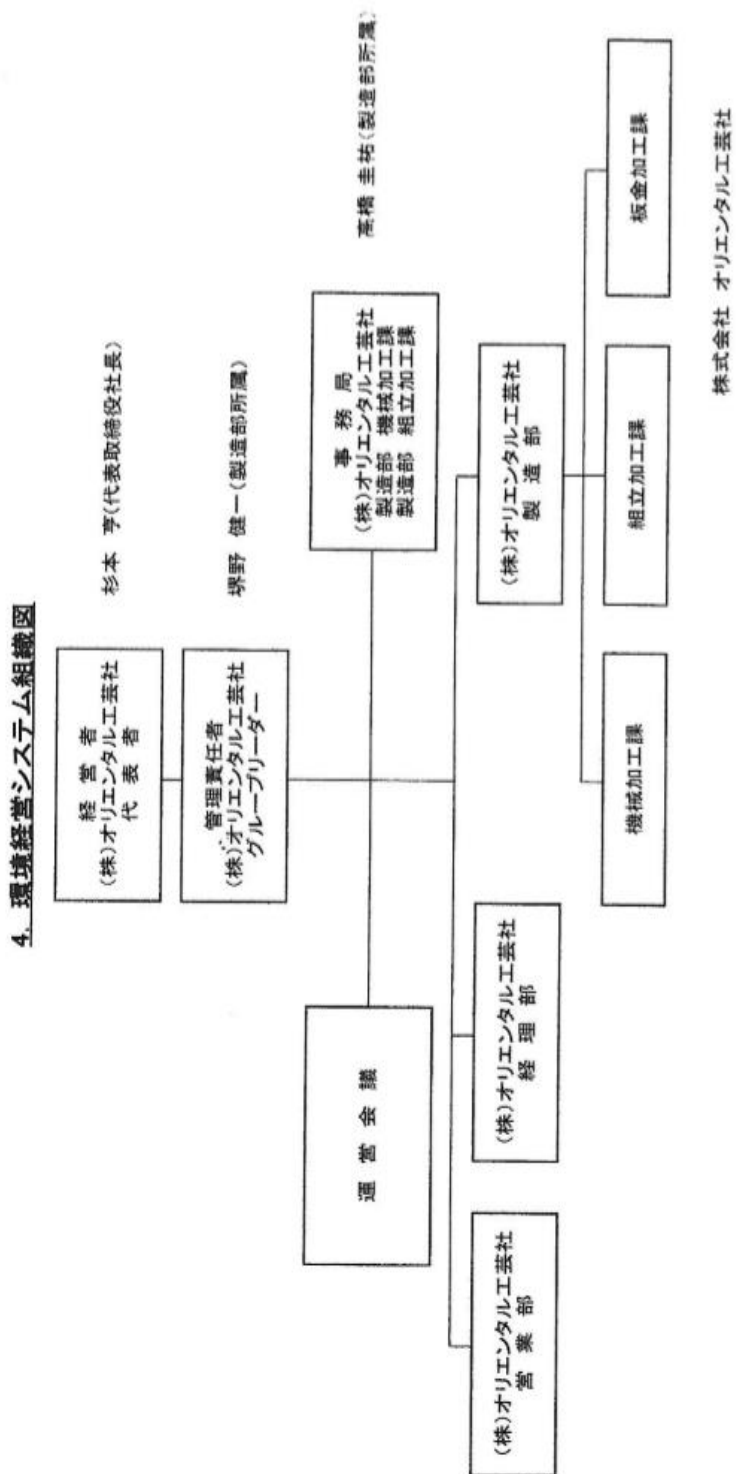
### 7. 事業内容

組立加工課	エレベーター用部品製造（カゴ操作盤・乗場押釦・点字銘板）
機械加工課	精密機械加工（ロボット部品・バルブ関係・ノズル関係）
板金加工課	エレベーター用部品製造（カゴ操作盤ボックス・乗場押釦ボックス）

### 3.今期の特徴(スポットライト)

- 1月 新製品(石鹼型おともライト)の開発に取り組んでおります。
- 1月 猫の絵の缶バッジ作り、CM用に配布することにしました。
- 2月 エコアクション21の中間審査を受け認証されました。
- 3月3日 東京都立六郷工科高等学校のHPに弊社が掲載されました。
- 4月1日 大田区六郷高校から高卒として当社に1名が入社しました。
- 4月19日 東京工業大学ー東京医科歯科大学ースイス連邦工科大学ローザンヌ校  
国際ワークショップに参加しました。
- 4月22日 新製品開発のため、大田区の助成金制度に応募しました。  
助成金制度の結果は落選しました。
- 5月18日 岐阜県高山市立松倉中学校の生徒たちによる企業訪問(工場見学)
- 6月29日 ダイコー(株)の安全大会に3名が参加しました。
- 6月13日 インターンシップで、地元の高校から生徒を受け入れる事にしました。7月8日まで。
- 7月1日 新製品の打ち合わせで台湾に出張しました。(高橋)
- 7月5日 大田区の「優工場」に応募する事にしました。
- 8月22日 教員派遣研修の名目で8月22日～26日まで六郷高校の先生が働きにきました。
- 9月10日 大田区の「大田の工匠」制度に当社の塚野君を推薦しました。
- 9月16日 大田区の「優工場」の第1回目の審査を受けました。
- 10月6日 「むとうフォーラム2016」に2名が参加しました。
- 11月14日 インターンシップで、地元の高校から生徒を受け入れる事にしました。
- 11月16日 東京都中小企業振興公社の人とインターンシップの件で打ち合わせをしました。
- 11月16日 大田区の「優工場」に応募、結果として優工場に認定し、総合部門を受賞しました。
- 11月29日 地元の「大森第三小学校」の3年生90人が工業見学にきました。
- 12月22日 平成28年度 東京都教育委員会より表彰される事になりました。

4.環境経営システム組織図



## 5.受賞歴

- 1998年 8月1日 菱電エレの「問題意識と改善意欲の件」で表彰される。
- 2001年 11月15日 大田区の「優工場」に認定、合わせて総合部門を受賞。
- 2007年 4月13日 環境省の「エコアクション21」に認証される。
- 2008年 5月28日 経産省の「元気なモノづくり中小企業300社」を受賞。
- 2009年 10月8日 大田ブランドの「ブランドPRコンテストで2位」を受賞。
- 2011年 2月3日 大田区の「中小企業新製品・新技術コン」で奨励賞を受賞。
- 2014年 2月24日 中小企業経営力大賞の「IT経営実践認定証」を受賞。
- 2014年 2月25日 東京都の「経営革新計画の承認」を受賞。
- 2014年 10月18日 東京都産業労働局の「輝く技術・光る企業vol.12」に載りました。
- 2016年 10月6日 税理士法人無から「4年連続増収増益」で表彰されました。
- 2016年 11月21日 (再)大田区の「優工場」に認定、合わせ総合部門を受賞。
- 2016年 12月22日 平成28年度 東京都教育委員会より表彰される事になりました。

得意先企業の各年ごとの「感謝状・努力賞・表彰状」は除きます。

## 6.工業見学・インターンシップの内容

2013年(平成25年)からインターンシップ(就業体験)として大田区の六郷高校と付き合いようになり、最初は1日だけの教育実習、そして1週間、なかには1か月と長期的な教育実習の時もありました。

人数的には最初は1名、時には2名の時もありました(六郷高校の要望で)。

2014年(平成26年)に東京都産業労働局発行の「輝く技術・光る企業」で当社を紹介して頂きました。主に大学・高校・専門学校・中学校などに配布されているようです。

2015年(平成27年)の4月前後に「輝く技術・光る企業」を見られた中学校2校(岐阜県高山市立松倉中学校・静岡県裾野市の裾野市立西中学校)が学校教育の一貫として当社の工場見学を希望され、そして5月20日前後に2校ともに6名前後で工業見学をされました。

町内役員の集会の時や、盆踊りやお祭りの集まりなどの集合場所に地元の会社として参加をし、コミュニケーションをはかってきました。そこに集まって来るお客様としては地元の警察署の方や消防署の方、それに税務署や銀行の方々、もちろん地元の中学校や小学校の校長先生などもおられます。その色んな方たちとの会話の中にはもちろん学校の先生方たちもおられます。

そして、その先生方との会話の中で、「ぜひ、会社見学をさせてもらえないか？」との問い合わせがありました。私は「ええ、いいですよ、喜んで！」

2015年(平成27年)の11月に地元の「大森第三小学校」の3年生80人の生徒たちが賑やかに工業見学をされました。

今年のインターンシップ(就業体験)の状況や工業見学の状況に関して

嬉しい事に、「六郷工科高等学校」から1名(林君)が新社員として当社に入社してくれました。

3月に六郷高校のホームページに当社が掲載されました。

6月13日から7月8日までインターンシップ(就業体験)で六郷高校の生徒1名を受け入れました。

何と、ビックリな事に六郷高校の先生(1名)が、教員派遣研修の名目で8月22日～26日まで当社に働きにきました。

再度11月14日から12月9日までインターンシップ(就業体験)で六郷高校の生徒1名を受け入れました。

5月18日に岐阜県高山市立松倉中学校が去年に続き工業見学にきました。

11月29日に地元の「大森第三小学校」の3年生90人が去年に続き工業見学にきました。



## 7.フロンガスの検査表(簡易点検)

簡易点検の内容 3ヶ月に1回以上、目視による外観点検を実施の事。

- 1、室外機の振動や運転音がいつもと違うかどうか確認する事。
- 2、室外機及び周辺の油のにじみがないか確認する事。
- 3、室外機のキズの有無、熱交換機の腐食、錆を確認する事。
- 4、室内機の熱交換機の霜付きなどの有無などの確認をする事。

検 査 項 目					
		1、振動・運転	2、油のにじみ	3、腐食・錆	4、霜付き
2016年	11月15日	○	○	○	○
2017年					
2017年					
2017年					
2017年					

## 8.社内の運動施策 (2016年10月31日)

- ガソリン (CO<sub>2</sub>削減) ①、近場は自転車を利用する事。(小さいもの、軽いもの同様に!)  
②、アイドリング禁止。  
③、最短距離での運転。
- ストーブ (灯油) 朝、①、就業時間前に出勤してきた社員(7時50分頃)がストーブを点ける。  
②、作業時間(8時30分)の10分前に消灯する。  
昼、①、終了時間(12時)の終了後に社員がストーブを点ける。  
②、作業時間(1時)の作業開始の10分前に消灯する。
- 機械の潤滑油 (金川社員がほぼ担当)  
(フライス盤他) 廃液(排油)は業者さんの引き取りで、使用方法は現状のまま。
- 機械の潤滑油 潤滑油は小分けに使用し、全て使い切ってしまう。  
(ボール盤など)
- ゴミ ①、東京都のビニール袋(70ℓ)に満杯まで入れて処分する。  
②、ペットボトルのキャップを集める。  
③、空き缶と同様にペットボトルも分別へ。  
④、使用済みの紙はシュレッターにかけ、梱包のクッション材として利用する。  
⑤、FAXなどの利用済の紙は裏面を再利用する。  
⑥、ダンボール箱は再利用し、使えない物は潰して千切って捨てる。
- 電力(電気) ①、外回りなど留守にした場合、居ない場所での電気を消しておく事。  
②、コンセントはこまめに抜く事。  
③、お昼休みと終了時間には、各自において全ての電気を消す事。  
④、PCは現状維持(使用時のみSWを入れる)でいく。
- 水道 水道の蛇口をこまめに止めるようにする。
- 掃除 掃除が終わるまで換気をきちんと行う。(特にブース内は)
- 5S運動 (整理、整頓、清掃、清潔、しつけ) :会社全体の基本なので必ず厳守の事。
- ほうれんそう (報告、連絡、相談) :会社全体の基本なので必ず厳守の事。

## 9. 環境目標と実績グラフ及び評価

### 9-1. 環境目標

2016 年度目標及び中長期目標（2016 年-2018 年）は、以下の目標を掲げ環境活動に取り組  
みを行なっております。

#### エネルギー・資源の削減

項目	目標
1. 二酸化炭素排出量	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2015 年度実績を目標とする。</li><li>・ 中長期目標、各前年度比実績並を目標とする。</li></ul>
2. 廃棄物排出量の把握	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 産業廃棄物はゼロとし、一般廃棄物は、重量把握の実施を行い 2015 年度実績を目標とする。</li><li>・ 中長期目標は、各前年度比実績並を目標とする。</li></ul>
3. 総排水量の削減	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2015 年度実績を目標とする。</li><li>・ 中長期目標は、各前年度比実績並を目標とする。</li></ul>
4. 化学物質使用量の管理	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 化学物質含有製品の在庫量を 1.8L 前後に抑制管理を行う。</li><li>・ 中長期目標は、毎年 2 回安全データシート（SDS）教育を行う。</li></ul>
5. グリーン購入の促進	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 文具類、段ボール等を中心に、環境配慮品を重点使用していく。</li><li>・ 中長期目標は、現状調査し 2018 年に 6 %アップする。</li></ul>
6. 環境に配慮した取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 機能性エレベーター部品の開発・改良に継続取り組みを行う。</li><li>・ 中長期目標は、毎年 2 件程度の新規案件を実現したい。</li></ul>

## 9-2.実績（環境負荷量）と評価

2014年度実績（14年1月～14年12月）、2015年度実績及び、2016年度実績の環境負荷量は以下の通りである。

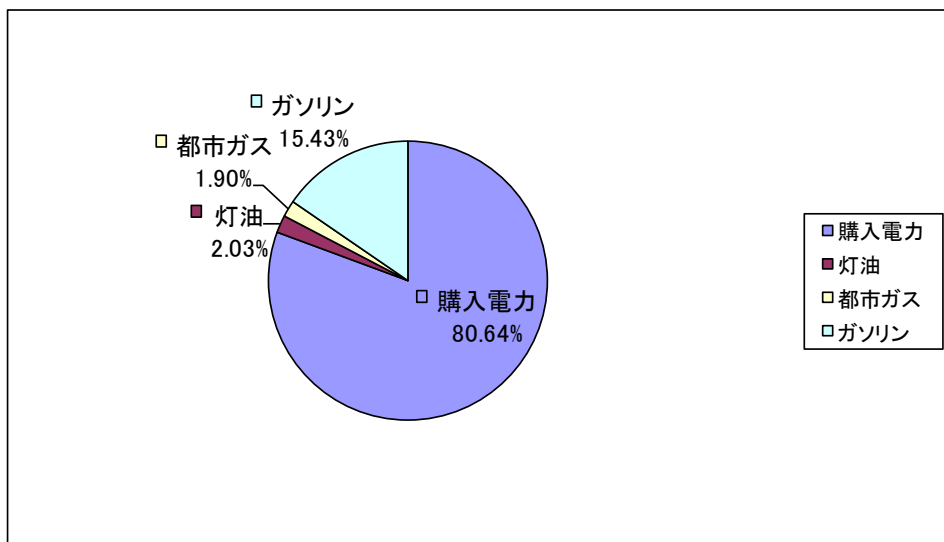
		2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 目標	2016年度 実績	評 価
二酸化炭 素排出量	① 購入電力(kg-CO <sub>2</sub> )	12,498.2	13,615.9	13,615.9	14,275.5	×
	②灯油 (kg-CO <sub>2</sub> )	313.9	448.5	448.5	448.5	○
	③都市ガス (kg-CO <sub>2</sub> )	295.2	255.1	255.1	183.4	○
	④ガソリン (kg-CO <sub>2</sub> )	2391.2	1592.8	1592.8	1720.8	×
	① +②+③+④(kg-CO <sub>2</sub> )	15,498.5	15,912.3	15,912.3	16,628	×
	売上当りの排出量	74.15	74.01	74.01	80.32	×
廃棄物総 排出量	総廃棄物量(t) 一般	98袋	145袋	145袋	137袋	○
	売上当りの排出量	—	—	—	—	
	産廃	0	0	0	0	
総排水量	総排水量(m <sup>3</sup> )	343	329	329	303	○
	売上当りの排出量	1.64	1.53	1.53	1.46	○

※購入電力の温室効果ガス排出量の係数は0.378 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用しました。

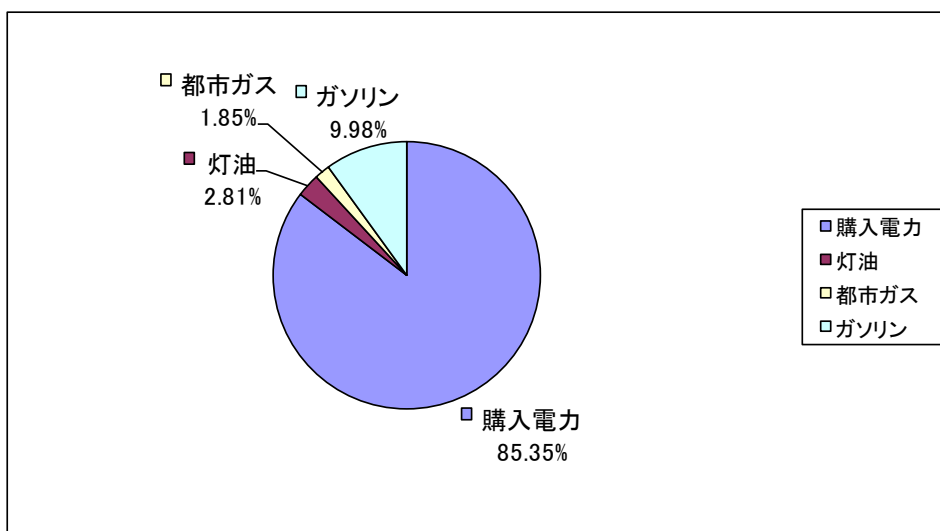
※2015年度も2014年度と同様に廃棄物総排出量は、1袋/70Lです。

10-1. 環境目標と実績(グラフ)

2014年度実績			
購入電力	12498.2	購入電力	80.64
灯油	313.9	灯油	2.03
都市ガス	295.2	都市ガス	1.90
ガソリン	2391.2	ガソリン	15.43
	15498.5 (kg-CO2)		100 (%)

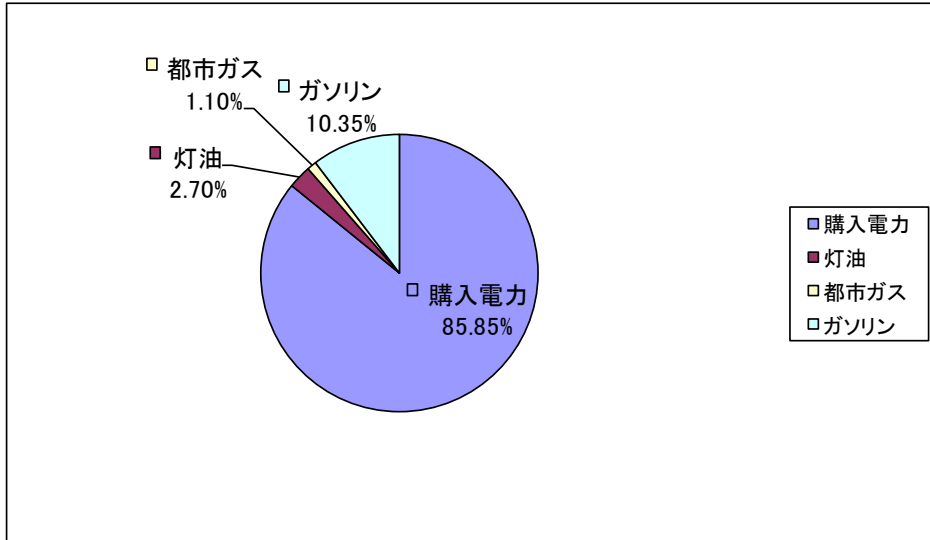


2015年度実績			
購入電力	13615.9	購入電力	85.35
灯油	448.5	灯油	2.81
都市ガス	295.2	都市ガス	1.85
ガソリン	1592.8	ガソリン	9.98
	15952.4 (kg-CO2)		100 (%)

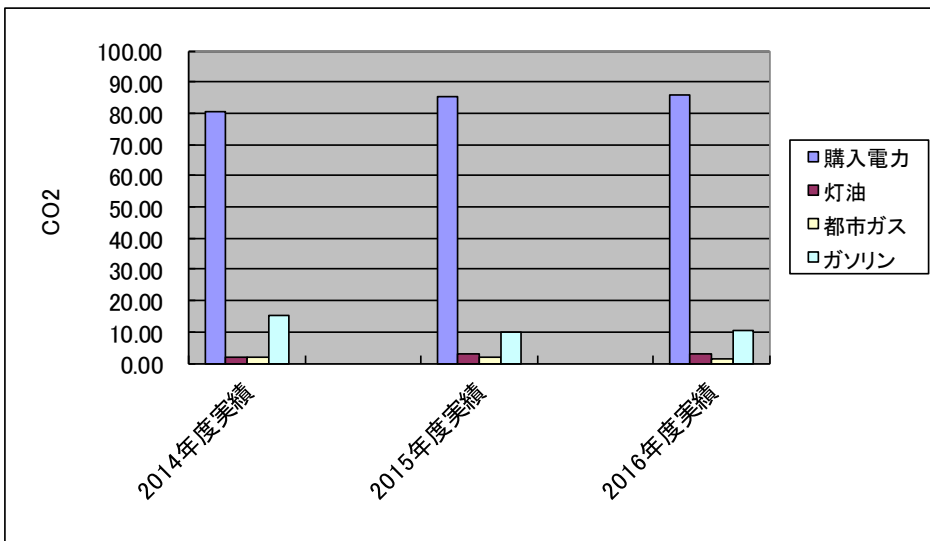


10-2. 環境目標と実績(グラフ)

2016年度実績					
購入電力	14275.548		購入電力	85.85	
灯油	448.5474		灯油	2.70	
都市ガス	183.43341		都市ガス	1.10	
ガソリン	1720.837609		ガソリン	10.35	
	16628.3664	(kg-CO2)		100	(%)



	購入電力	灯油	都市ガス	ガソリン	合計(%)
2014年度実績	80.64	2.03	1.90	15.43	100
2015年度実績	85.35	2.81	1.85	9.98	100
2016年度実績	85.85	2.70	1.10	10.35	100



## 10. 環境活動計画及び取組結果の評価、次年度の取組内容

### 二酸化炭素排出量

2016年度は、前年度比で二酸化炭素排出量が約4.5%増加した。内訳を見ると、電力9.5%増、灯油＝前年度、ガス1.3%減、ガソリン8.0%増である。

項目の中では、特に売り上げ当たりの電力とガソリンの増加が大きい。電力に関しては、仕事量の増加に伴う機械稼働、営業時間の増大が主因として考えられます。また、2016年度は繁忙期(残業時間が増えたため)と閑散期の波が激しかったのも要因として考えられる。ガソリンに関しては、協力会社の外回りが毎日の様にあることが主因であります。

全体の売上当たり二酸化炭素排出量は、前年比8.5%増加し、環境効率指標は前年よりも悪くなっております。

2017年度は、電力とガソリンの数値を少しでも下げられるように、社員一同積極的に努めて参ります。

### 廃棄物排出量

2014年度より、1袋/70Lの物を1個としてカウントしている。これは、見た目でゴミの量が分かりやすい。2016年度は、前年度145袋に対して137袋と5.5%減少している。

これは、コピー用紙の再利用やペットボトルの分別を新たに行ったことによるものと考えられる。2017年度も昨年同様、コピー済みの用紙の裏面使用、梱包材として紙の再利用を行う等、廃棄物取扱手順にもとづき、今後も徹底していきたい。

### 総排水量

2016年度は、全員で節水への取組みを実施し、前年比よりも7.9%低減いたしました。

2017年度も、敷地内緑化の維持のため雨水利用の継続とともに、全員で工場内節水を意識し取り組んでまいります。

### 化学物質使用量

2016年度も、2015年度と同じように、化学物質を含む製品に関し、これまでの1斗缶在庫を継続しており、残量少なくなり次第、補充を行っております。この管理手法により、日常的に守られていると評価しております。2017年度に関しても、各製品の在庫量は、1.8リットル前後で維持していきたいと考えております。

## グリーン購入

2016年度もグリーン購入の促進を目標に掲げ、名刺、封筒、コピー用紙の購入を再生紙の物へ変更してまいりました。社内の意識も従来に増し高まっていると判断しております。

2017年度は、文具・消耗品等を主体に現状を把握し、情報収集を図り、エコマーク等環境ラベル製品を優先的に購入していきたいと思えます。

## 環境に配慮した取り組み

2016年度は、本業のエレベータボタン分野に於きまして、非常時におけるバッテリー搭載型押釦の製品開発・研究に注力して参りました。特に、2020年東京オリンピックの影響からリフォームをするエレベーターが多くなると思われ、また東日本大震災からエレベーターの停止した際の対応が求められるようになってきました。

2017年度では、お客様のニーズを踏まえ、さらに改良を進め、より充実した機能を有する製品開発の取組みに注力していきます。

## 次年度の取組内容

2017年度に関しては、販売・生産活動の拡大基調下、各目標項目の達成のため、2016年度の環境活動施策をベースに、上記各項に記載した活動を粘り強く遂行し、一層の取組み強化を図ってまいります。



## 11. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境法規内容の変更のチェック及び遵守状況の見直しを定期的に行っております。  
その結果、環境関連法規への違反、訴訟はありません。

なお、関係当局よりの違反、訴訟等の指摘は、創業以来1度もありません。

\*各関連法規は2月10日に確認致しました。

法規則名	規制事項	遵守状況	確認日
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	保管の基準の遵守	現場確認	2月 10日
消防法	許可及び届出の実施 貯蔵、取扱いと施設の遵守 消火器の設置	現場確認 許可の確認 届出の確認	2月 10日
特定家庭用機器再商品化法 法令第6条 (家電リサイクル法)	長期間の使用と廃棄物の抑制 適切な引渡しと料金支払い	家電引渡書の確認	2月 10日
使用済自動車の再資源化等に関する法律 法令第8条・第73条 (自動車リサイクル法)	自動車の所有者は、当該自動車を使用済み自動車となった時は、引取業者に当該使用済み自動車を引き渡さなければならない	自動車引渡書の確認	2月 10日
東京都環境基本条例 第6条	東京都の定めを遵守し環境の保全に努める	現場確認	2月 10日
大田区廃棄物の減量及び適正処理に関する条例 第8・14-21・31-45条	大田区の定めるごみ収集日、分別法に合わせ遵守する。	収集日・分別法の事務所内の掲示 現場確認	2月 10日
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 第68条、第136条	騒音・振動の発生を東京都の定める基準値以下とすること。	現場確認測定	2月 10日
道路運送車両法	① 車検 (2年ごと) ② 車検 (1年ごと)	全車両の備え付けを確認した	2月 10日
省エネ法	① 電気使用量の削減 ② 燃料の削減	EA21 取組みの実施	2月 10日
騒音規制法 大田区環境部	せん断機の騒音確認	現場確認 届の確認	2月 10日

振動規制法 大田区環境部	せん断機の振動確認	現場確認 届の確認	2月 10日
東京都CO <sub>2</sub> 排出量規制 電気、燃料使用量の削減	EA21 取組み の実施	現場確認 届の確認	2月 10日
フロン排出抑制法	3ヶ月毎の簡易点検	現場確認	2月10 日

## 12.全体の評価と見直しの記録（2016年度）

目的：環境マネジメント報告書に基づきシステムの有効性について全体の評価と見直しを行う。

頻度：年1回

製作者：代表取締役 杉本 亨

記録：この記録は、環境記録として保管する。

### 状況

昨年度（2015年度）と比べると、特に電力とガソリンの増加が大きい。電力に関しては、仕事量の増加に伴う機械稼働、営業時間の増大が主因として考えられます。また、2016年度は繁忙期と閑散期の波が激しかったのも要因として考えられる。ガソリンに関しては、協力会社の外回りが毎日の様にあることが主因であります。

全体の売上当たり二酸化炭素排出量は、前年比 8.5%増加し、環境効率指標は前年よりも悪くなっております。

2017年度は、電力とガソリンの数値を少しでも下げられるように、社員一同積極的に努めて参ります。

### 環境方針

環境方針を2012年11月15日に改定しました。環境保全活動の一環としての当社の考え方、取り組みを明記しました。

### 二酸化炭素排出量

#### ① 二酸化炭素排出量

2016年度は、前年度比で二酸化炭素排出量が約 4.5%増加した。内訳を見ると、電力 9.5%増、灯油＝前年度、ガス 1.3%減、ガソリン 8.0%増である。

項目の中では、特に売り上げ当たりの電力とガソリンの増加が大きい。電力に関しては、仕事量の増加に伴う機械稼働、営業時間の増大が主因として考えられます。また、2016年度は繁忙期(残業時間が増えたため)と閑散期の波が激しかったのも要因として考えられる。ガソリンに関しては、協力会社の外回りが毎日の様にあることが主因であります。

全体の売上当たり二酸化炭素排出量は、前年比 8.5%増加し、環境効率指標は前年よりも悪くなっております。

2017年度は、電力とガソリンの数値を少しでも下げられるように、社員一同積極的に努めて参ります。

## ② 廃棄物排出量

2014年度より、1袋/70Lの物を1個としてカウントしている。これは、見た目でごみの量が分かりやすい。2016年度は、前年度145袋に対して137袋と5.5%減少している。

これは、コピー用紙の再利用やペットボトルの分別を新たに行ったことによるものとする。2017年度も昨年同様、コピー済みの用紙の裏面使用、梱包材として紙の再利用を行う等、廃棄物取扱手順にもとづき、今後も徹底していきたい。

## ③ 総排水量

2016年度は、全員で節水への取組みを実施し、前年よりも7.9%低減いたしました。

2017年度も、敷地内緑化の維持のため雨水利用の継続とともに、全員で工場内節水を意識し取り組んでまいります。

## ④ 化学物質使用量

2016年度も、2015年度と同じように、化学物質を含む製品に関し、これまでの1斗缶在庫を継続しており、残量少なくなり次第、補充を行っております。この管理手法により、日常的に守られていると評価しております。2017年度に関しても、各製品の在庫量は、1.8リットル前後で維持していきたいと考えております。

## ⑤ グリーン購入

2016年度もグリーン購入の促進を目標に掲げ、名刺、封筒、コピー用紙の購入を再生紙の物へ変更してまいりました。社内の意識も従来に増し高まっていると判断しております。

2017年度は、文具・消耗品等を主体に現状を把握し、情報収集を図り、エコマーク等環境ラベル製品を優先的に購入していきたいと思っております。

## 今後の展望

2017年度に関しては、販売・生産活動の拡大基調下、各目標項目の達成のため、2016年度の環境活動施策をベースに、上記各項に記載した活動を粘り強く遂行し、一層の取組み強化を図ってまいります。

上記の評価結果を踏まえ、環境方針、環境目標、環境活動計画及び環境経営システム等の変更をする必要性はないと判断します。